

ペットビジネスに関する調査を実施（2016年）

-ペットの健康維持・管理への関心は引き続き高く、商品の充実化が進む-

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内のペットビジネスの調査を実施した。

1. 調査期間:2016年10月～2017年2月
2. 調査対象:ペットフードメーカー、ペット用品メーカー、卸売業者、小売業者および関連団体等
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

<ペット関連総市場とは>

本調査におけるペットとは、犬や猫を中心にペットショップ等にて販売されるペットを対象とし、ペット関連総市場とは、主にペットフード、ペット用品、その他ペット関連産業に大別される。なお、その他ペット関連産業には、生体やペット美容室、ペット医療、ペット保険、ペットホテルなどの関連サービスが含まれる。

【調査結果サマリー】

◆ 2015年度のペット関連総市場規模は前年度比101.5%の1兆4,720億円、

2016年度は前年度比101.1%の1兆4,889億円の見込み

2015年度のペット関連総市場規模は、小売金額ベースで前年度比101.5%の1兆4,720億円と推計した。ペット用品はほぼ横這いとなり、ペットフードはキャットフードが好調に推移し微増となった。サービス関連では、ペット保険市場が引き続き拡大した。

2016年度も同様の傾向が続いていることから、ペット関連総市場規模は前年度比101.1%の1兆4,889億円を見込む。

◆ ペットの高齢化・小型犬化により、軟らかいタイプのフード、スナックが好調に推移

2015年度のペットフード市場規模は、小売金額ベースで前年度比102.8%の4,735億円と推計した。2015年度も引き続きキャットフード市場が拡大し、ドッグフード市場がほぼ横這いで推移した。ペットの高齢化や小型犬化が進むなか、軟らかいタイプのフードへの需要が高まっている。

◆ ペットの健康維持・管理への関心は引き続き高く、参入事業者による商品の充実化が進む

ペットフードでは、飼い主のペットに対する健康志向の高まりにより、商品の多様化・細分化が進んでいる。ペット用品では、引き続き、デンタルケア用品が拡大基調である。また、高齢ペットの排泄ケア及びマナー目的の使用増により、ペット用おむつ市場が伸長している。

現下、ペット保険市場の拡大にも象徴されるように、ペットの健康管理のための支出は近年増加傾向にあり、今後も飼い主の需要に応えるかたちで、ペットの健康維持・管理を目的とした商品およびサービスの充実が進んでいくとみられる。

◆ 資料体裁

資料名:「ペットビジネスマーケティング総覧 2017年版」
 発刊日:2017年3月6日
 体裁:A4判 390頁
 定価:110,000円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況

1. ペット関連総市場概況と予測

2015年度のペット関連総市場は、小売金額ベースで前年度比101.5%の1兆4,720億円と推計した。ペット用品はほぼ横這いとなったが、ペットフードは引き続きキャットフードが好調に推移し、市場は微増で推移した。サービス関連では、ペット保険が依然市場を拡大させている。

2016年度も同様の傾向が続いていることから、ペット関連総市場規模は前年度比101.1%の1兆4,889億円を見込む。今後もペットの飼育頭数の大幅な拡大は見込みにくいものの、関連各社の付加価値製品・サービスの提案が進むことで、当該市場規模は金額ベースでは横這いから微増にて推移すると予測する。

2. 主要分野別の概況

本調査におけるペット関連総市場は、ペットフード、ペット用品、その他ペット関連産業(生体やペット美容室、ペット医療、ペット保険、ペットホテルなどの各種サービス)に大別される。

2-1. ペットフード市場

ペットフードの2015年度の市場規模は、小売金額ベースで前年度比102.8%の4,735億円と推計した。

ドッグフード市場は、大型犬の減少により、依然としてドライフードの大容量(大袋)タイプの需要が縮小しているなか、高価格帯商品であるプレミアムフードの需要拡大によって、数量の減少を金額でカバーする格好で、金額ベースではほぼ横這いで推移している。飼い主のペットに対する健康志向の高まりにより、年齢別や犬種別、体格別、健康目的・症状ケア別などの商品の細分化・多様化が進んでいる。

キャットフード市場は、市場規模はドッグフードにはまだ及ばないものの、拡大基調である。犬の飼育頭数が伸び悩むなか、犬と比較し飼育頭数が安定している猫に対し、ペットフードメーカー各社からの期待が相対的に高まっており、猫用フードの新商品投入が活発化している。また小売店側でも猫関連売場を拡充させるなど、市場拡大の追い風となっている。

全体的にペットの高齢化や小型犬化が進むなか、軟らかいタイプのフードへの需要が高まっているが、キャットフードではウェットフードが好調であった。

2-2. ペット用品市場

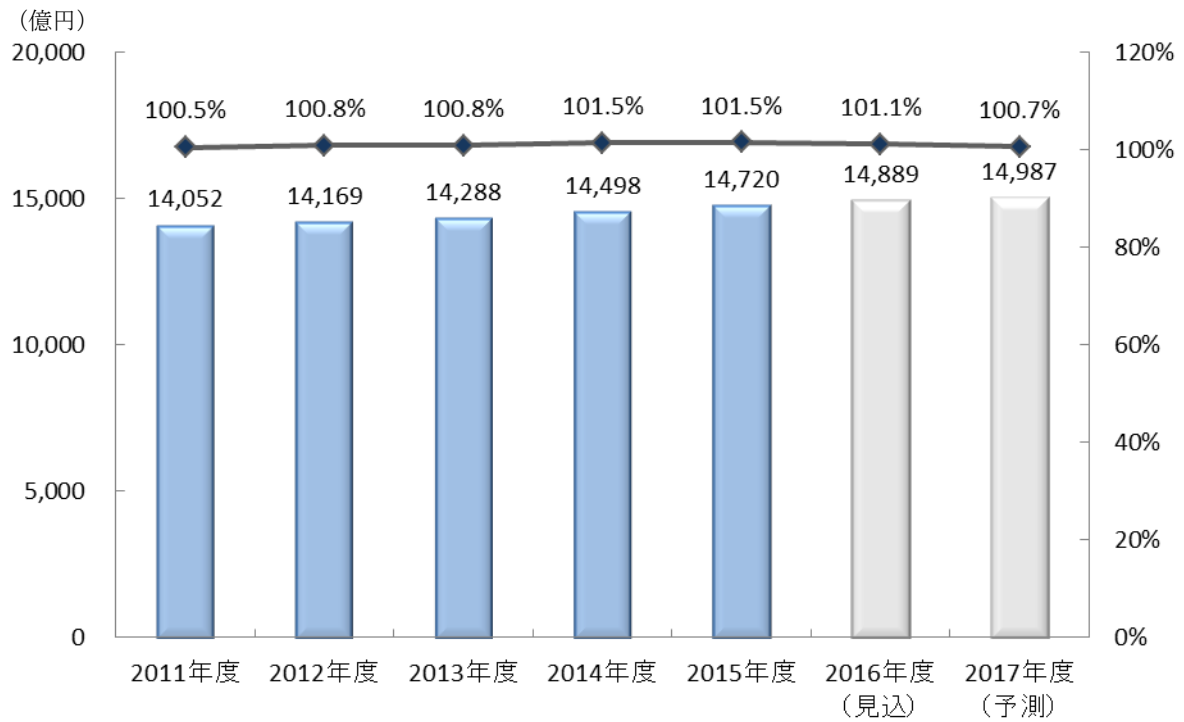
ペット用品の2015年度の市場規模は、小売金額ベースで前年度比100.1%の2,505億円と推計した。ペット用品では、引き続き、デンタルケア用品が拡大基調である。また犬用トイレシート、猫砂など、室内飼育においてほぼ必需品となっている排泄ケアの消耗品は、市場規模は大きいものの、依然として低価格化の傾向は続いており、ほぼ横ばいで推移した。一方、近年老犬介護やマナーの観点から需要が高まっているペット用おむつなどについては市場が伸長している。

2-3. ペット関連産業市場

ペット関連産業市場には生体やペット美容室、ペット医療、ペット保険、ペットホテルなどの各種サービスが含まれる。2015年度の同市場規模は、小売金額ベースで前年度比101.2%の7,480億円と推計した。

ペットの飼育頭数が近年、頭打ち傾向とされる一方、ペットに対する支出は増加傾向にある。コンパニオンアニマル化により、ペットを家族の一員として受け入れる家庭が増加し、ペット飼育のサポート、またはペットとの生活を楽しむためのサービス関連支出が増加している。なかでも、ペット保険市場の拡大にも象徴されるように、ペットの健康管理のための支出は近年増加傾向にあり、今後も飼い主の需要に応えるかたちで、ペットの健康維持・管理を目的とした商品およびサービスの充実が進んでいくとみられる。

図1. ペット関連総市場規模推移と予測



矢野経済研究所推計

注1. 小売金額ベース

注2. (見込) は見込値、(予測) は予測値

注3. 過去に遡って市場規模の一部見直しを行ったため、過去の公表値とは異なる。